

大学図書館の将来像

土屋俊

(千葉大学)

<http://CogSci.L.Chiba-U.ac.jp/~tutiya/Talks/>

骨子

- 大学改革と社会情報化の同時進行
 - 日本の大学の何が問題とされているのか
 - 「IT革命」はブームではない
- 変化する大学の社会的役割(近代を超えて)
 - (指導的)人材養成からの脱皮
 - 国策直結からの脱皮
 - 翻訳学問からの脱皮
- 変化する大学図書館の役割
 - 教育・研究における支援機能の必要性
 - (学界を含む)社会との直接連携の要請
- 大学図書館こそが大学改革を支える

昨今のいわゆる「大学改革」

1990年代年の政策

- 設置基準大綱化(教養教育の改革)
- 大学院重点化(大学院教育の改革)
- 科学技術基本計画と基礎研究振興
- 研究成果の直接還元(TLOなど)

• とくに90年代後半の展開

- 競争的環境、競争的資金と点検・評価
- 産学連携
- 教育の重視(日本における[教養]教育?)
- 「世界レベルの研究」(誰の基準で?)
- いわゆる「統廃合」?

大学改革の方向性

- 高等教育の状況

- アメリカ・(日本)型(50%)

- 12年度日本では大学40%、短大9%、専門学校20%

- イギリス・ドイツ型(30%)

- フランス・ヨーロッパ型(10%)

- 発展途上国型

- 日本の大学改革

- ドイツ型帝国大学方式からの脱出

- 戦後の大学大衆化(私学の問題:アメリカとの比較)

- アメリカ型二重構造体制(研究大学 + 4年制学部大学)への移行?

要するに、

1. 世界水準の研究をする大学

- 受賞件数等の水準の向上
- 学位授与の正常化(スタート資格としての学位)
- 影響力のある(被引用件数の多い)論文を産出
- でも、人文社会系では？

2. ちゃんとした教育をする大学

- 卒業生の品質保証をする学部教育(国立の役割)
- その前提としての教養教育(「設置基準大綱化」)

3. 教育・研究を社会に直接還元する大学

- 産官学連携(TLOなど)
- 教育サービス(これが案外難しい)

一方で、先進国社会の不可避の情報化

- 「電子図書館」と「インターネット」のアナクロニズム
 - 1993年 NII(通信と放送の融合)
 - 1995年 GII
(日本で国会関西館構想、電子図書館建議)
 - 1996年 日本でのインターネット爆発
 - 1997年 インターネット社会へ(図書館はまだCDROM)
 - 1999年 電子ジャーナル普及へ
- オープンなインターネットを社会情報基盤とする
 - 社会の「神経」としての情報通信システム(電話、POSなど)
 - モバイル化(PDA、Iモードの展開、WAP規格など)
 - 電子図書館としてのWWW(関西館、建議にはなし)
 - そのなかでの大学図書館の位置づけ

大学改革・情報化からの図書館へのデマンド (要約)

- 教育機関としての社会的役割
 - 学部レベル教育の教養化
 - 修士レベル教育の非学問化
 - 学生(正規・非正規)から見て使える学習図書館
- 研究機関としての社会的役割
 - 先端研究の推進(学術情報の円滑な流通)
 - そもそも「研究」概念の変質が予想される
 - 研究成果の移転の推進(情報発信)
 - 研究者から見て使える研究支援機能

しかし、話は簡単ではないが、、、

- 大学が変わらなければ図書館が変わりようがない
 - 大学側における目的意識の改革はあるか
 - 「いまなんとか動いているのになぜ変えるのか？」
 - 研究成果は比較的見えやすいが、教育の品質検査は？近年注目の社会貢献は？
- 図書館が大学を変えることができるのか
 - YES!(大学も図書館のサービス業)
 - 教育と研究において、学生と教員が共有する場としての図書館
 - 情報化の拠点としての大学図書館
 - 市民との接点をもつものとしての大学図書館

とはいえ、学習図書館構築不可能論も、、

- 勉強の場なくして勉強なし
 - 「受験勉強が忙しくて、本を読む暇がない」学生
- 学生用図書の圧倒的不足
 - 国大図協の調査(1998年) 1人新刊書0.6冊
 - もう遅い、誰の責任か(図書館の責任ではない)、国民的不見識
- そもそも学生は本を読むのか、読ませることに意味があるのか
- 教員は本を読んでいるのか？
 - 何のための教育？研究よりも読書
 - 情報リテラシー教育の真の課題

生涯学習と大学図書館

- 地域の情報(学術的)
- 図書館の開放、地域の異館種との分業
- 生涯学習こそが大学が生きる道
 - 半分が24歳以上になる日は近い(アメリカなみ)
 - イギリスにおけるHEとFEの基盤統合
- この目的から演繹される図書館の役割
 - 場所(物理的図書館とネット上の図書館)
 - 中身(大学生産の素材のゲートウェイとして)
 - MITのDspace
 - Open Archive Initiativeのmetadata harvesting protocol
 - Walk-in Useと電子資料(著作権)

図書館運営における教員の役割

- 図書館資料の収集への責任
 - 学習用: 教員として
 - 研究目的資料: 研究者として
 - 千葉大学の試み(資料予算の一本化、基本的外国雑誌、キャンパスグレイリテラチャの体系化)
- しかし、自覚は欠如している
 - 技術の進歩についていっているか(自分の研究方法でやっているかと盲信、「電子ジャーナル問題」で顕著)
 - 学生のために本を買うという自覚はあるか(研究室に本を置く意味は?)

電子図書館と図書館自動化

(建議(平成8年)という間違いは別にして)

- 「電子図書館とは何か」がわからなかった
奈良先端の不見識
目玉電子化方式
二流論文収集方式
標準化努力欠如
需要研究の欠如(誰のため、何のため)
- やっと電子図書館の姿が見えてきた
 - アクセス(利用): 学生向けと研究者向け
 - パブリッシング(発信): 社会向け
- 図書館員のスキルの問題はもうないはず

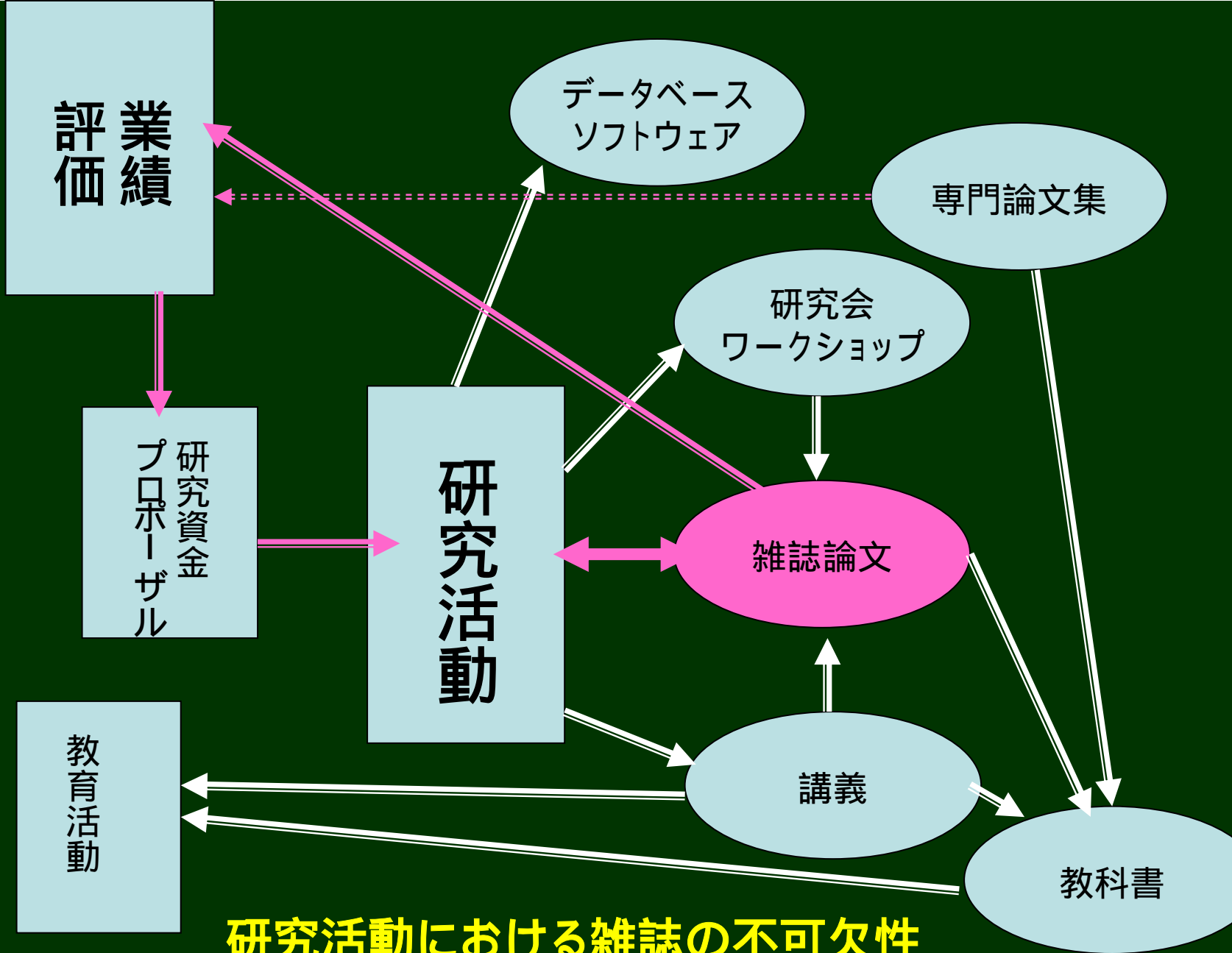
情報化による

学術的コミュニケーションの変容？

基本的には1980年代インターネットによって研究者が自分でコミュニケーションを制御できるようになったはずだが、

現実にはそうは展開していない

- 学術雑誌はどうか？ 電子ジャーナル化だが
 - 学会はどうか？ 組織率の低下(機関購読の増加)
 - 授業で使う教科書はどうか？ 紙の教科書はいつまで？
 - Serials Crisis 自立的出版か商業出版か
- これらすべてに教員はまったく無自覚



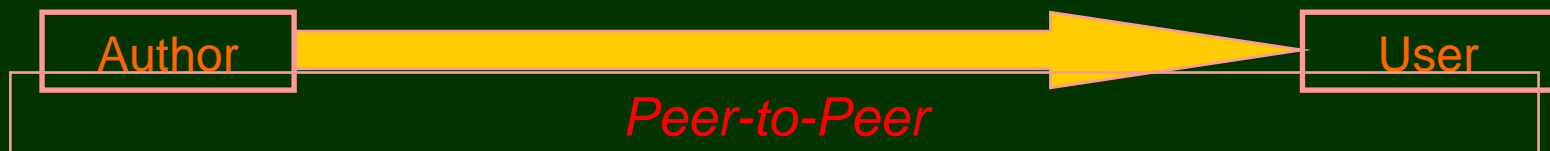
研究活動における雑誌の不可欠性

大学図書館の役割 (SPARCより)

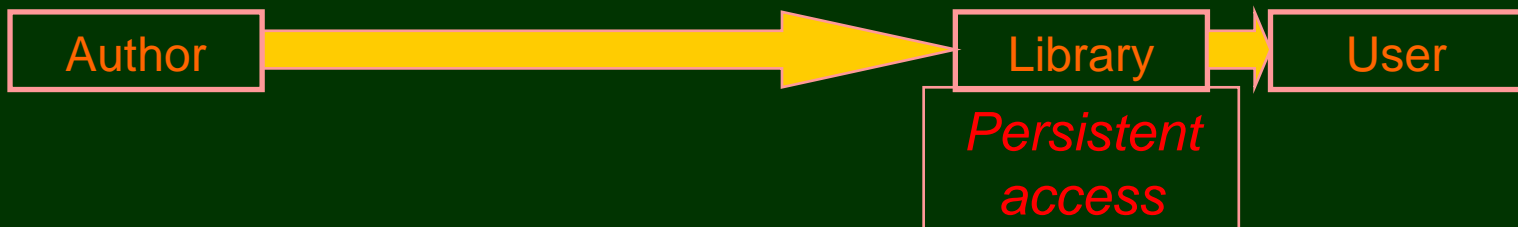
TRADITIONAL VALUE CHAIN



DISINTERMEDIATION?



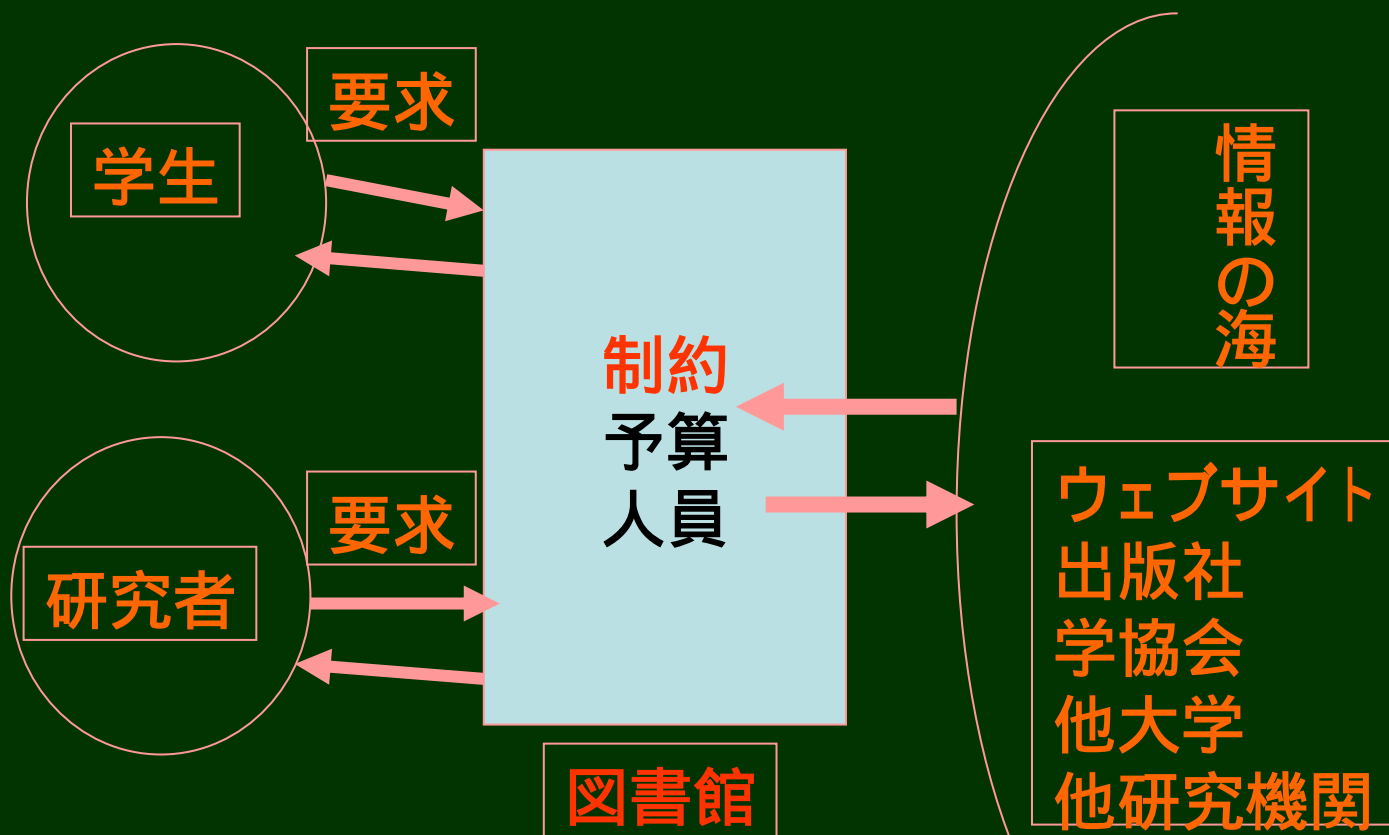
OR RE-INTERMEDIATION?



当面の対応と将来的対応

- コンソーシアムの交渉
 - 国立大学図書館協議会タスクフォース
 - いくつかのコンソーシアム形成
- 学内における予算の中央化
 - 研究者が個別に決定するメカニズムを改革
 - しばらくは、Big Dealへ加担
- アグリゲータの賢い利用
- 価格下降圧力の戦略的構築(将来)
 - ICOLC
 - SPARC、ISCA

ゲートウェイ・インターフェイス・アクセス支援



インターフェイスからアクセス・ファシリテータへ

契約(導入、著作権管理、メタデータ管理など)

大学における大学図書館の役割の将来

- 学生に自分で勉強するように仕向ける(つまり、本を読ませる)のは図書館
- 教員に世の中の情報化を思い知らせるのは図書館
- 大学運営における情報基盤の重要性を自覚して、実際に構築するのは図書館(ちなみに情報屋さんの出番はもう終わったかもしれない)
- キャンパスの中と外とを(発信も含めて)「契約」と「管理」によって仲介するのが図書館
- 基盤の一元的管理
 - ネットワークとコンテンツ
 - 予算と人員

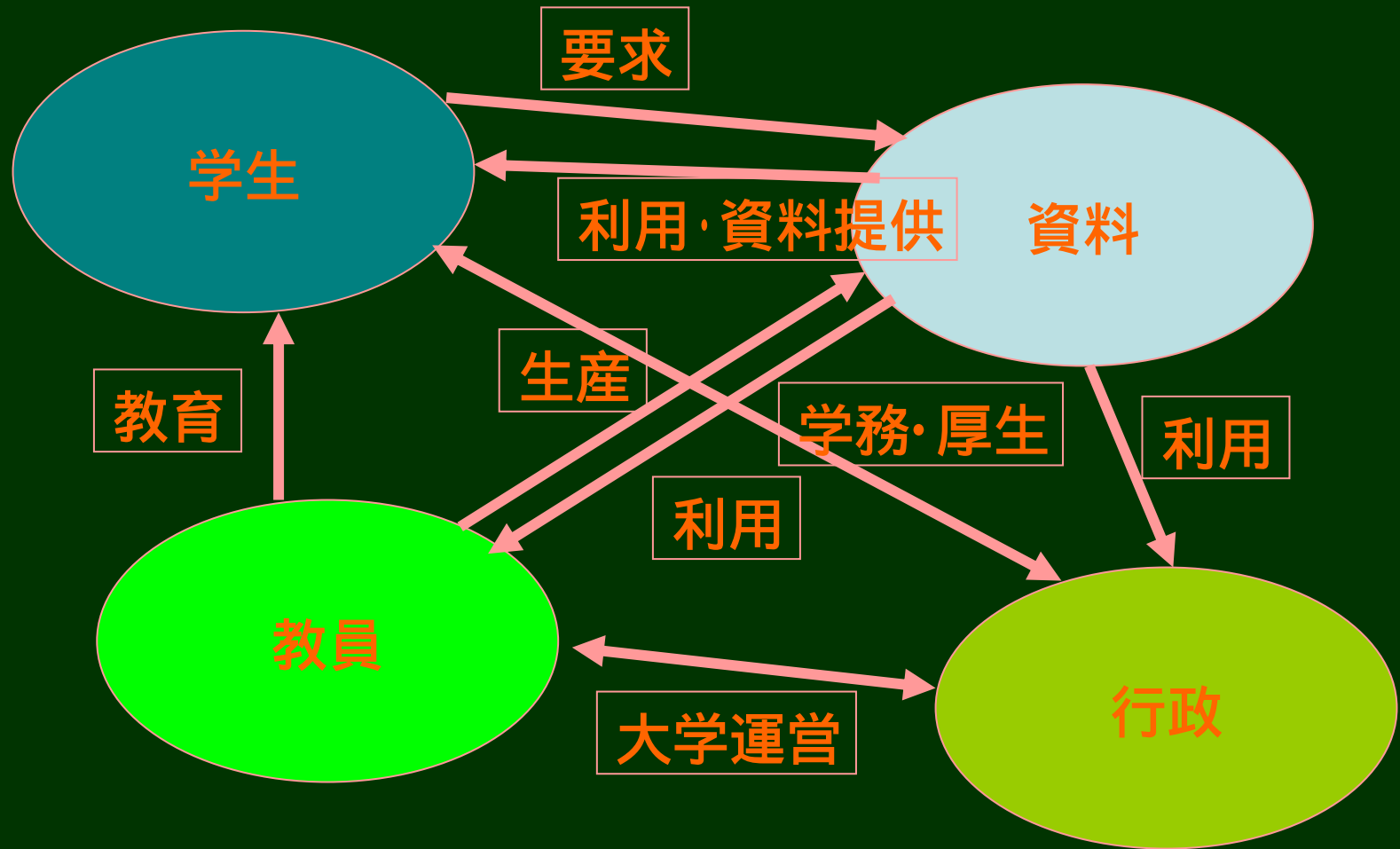
図書館の役割の実現が大学改革を実現

- ・ 学習支援機能の実現
 - 自分で考えることができる学生を育てる
 - 図書館資料とウェブリソースの継ぎ目なし検索
 - コア科目と支援図書予算(千葉大学)
- ・ 研究支援機能の実現
 - 電子ジャーナルの導入
 - 研究資料購入の中央経費化(千葉大学など)
- ・ 社会貢献(発信機能:生涯学習・産学連携支援)
 - 学内の分担(図書館:メタデータ管理と永久アクセス保障)
- ・ 情報基盤の一元管理へ
 - 図書館とセンターの統合(的連携)(千葉大学など)

21世紀のキャンパスでは情報基盤が本質的

- 多様な背景の学生が自分の条件に応じて、自分で学ぶ(パートタイム学生・進路変更学生の増加、いわゆる「学力低下」の本質化:準備なき学生への教育の一般化)
- 対面教育と遠隔・時差教育の使い分け(教室の意味の再定義が必要)
- 運営手法の効率化(統一IDと共通データベースに基づく学生・教員管理、電子的コミュニケーションによる会議の削減、権限の分散化による即時対応、対外・学内文書交換の電子化など)

大学の情報基盤とは？



図書館員のイニシアティブを求めて

- サブジェクト・ライブラリアンは教員で代用(ただし当面)。研究の直接支援はこれで十分
- 学生相手のリテラシー教育は積極担当
- 契約・業務管理(外注)・学内連携が主要任務
- 図書館は、情報基盤のすべてにかかわり、図書館が大学の情報基盤を作るしかない
- それが、次世代の図書館像を規定する
- 図書館は、大学の目的と現状を理解して、大学の目的の実現する役割を持つ